

第2回芸備線再構築協議会の開催結果について

1 概要

芸備線 備後庄原駅～備中神代駅間の交通手段再構築を議論する「芸備線再構築協議会」について、令和6年10月16日、第2回協議会が開催されたため、その結果について報告する。

【芸備線再構築協議会の概要】

- 対象路線：芸備線
- 特定区間：備後庄原駅（庄原市）～備中神代駅（岡山県新見市）
- 構成員：中国運輸局（議長）、岡山県、広島県、新見市、庄原市、三次市、広島市、安芸高田市【追加】、JR西日本、学識経験者 ほか
- 位置づけ：特定区間の交通手段再構築を協議する場
※広域的な見地から特定区間以外の区間も含めて広島駅～備中神代駅間の区間について議論を行う。

2 現状・背景（経緯）

令和5年10月3日 JR西日本が、地域交通法に基づき、備後庄原駅～備中神代駅間における再構築協議会の設置を要請

令和6年1月12日 中国運輸局が芸備線再構築協議会の設置を決定

3月26日 第1回芸備線再構築協議会 開催

5月16日 芸備線再構築協議会第1回幹事会 開催

7月10日 芸備線再構築協議会第2回幹事会 開催

10月16日 第2回芸備線再構築協議会 開催

3 議事

- ・ 芸備線再構築協議会規約の変更
- ・ 芸備線再構築協議会幹事会の実施報告
- ・ 芸備線再構築協議会予算案
- ・ 構成員からの意見について 等

4 議事の内容

- (1) 全国的な鉄道ネットワークのあり方について ※協議に先立って、国土交通省から説明
国土交通省鉄道事業課長から、全国的な鉄道ネットワークのあり方について、国鉄改革の経緯及びJR民営化に伴う大臣指針、基本方針に基づいて説明。（内容は第1回幹事会と同様）
- (2) 芸備線再構築協議会規約の変更
安芸高田市の加入及び人事異動に伴う構成員の変更について、構成員間で承認。
- (3) 芸備線再構築協議会幹事会の実施報告
次の点について、事務局から説明。
 - ・ 第1回・第2回幹事会の概要を報告
 - ・ 調査事業に係る企画競争審査結果及び契約の相手方（(株)野村総合研究所）を報告
- (4) 芸備線再構築協議会予算案
調査事業、協議会運営の予算案について、構成員間で承認。

(5) 構成員からの意見

① 全国的な鉄道ネットワークのあり方について

構成員	主な意見
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> 芸備線は、広域的な鉄道ネットワークを形成しており、国にも責任をもって議論に参画していただく必要がある。
広島県	<ul style="list-style-type: none"> 冒頭、国交省から説明のあった内容は、5月の幹事会での説明と同じであり、これまで本県が求めてきた整理に対する説明にはなっていない。 国の説明について、次の2点の確認が必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 広島県内において基幹的鉄道ネットワークに該当するのは山陽本線のみとなるが、基幹的鉄道ネットワークに該当しない路線は、JRの内部補助による路線維持は求めないということか。そうであれば、芸備線や呉線、可部線、福塩線、木次線については、いずれ廃止になってもよいと考えているのか。 ✓ JRに路線維持を求めないのであれば、国の責任のもとでローカル線を維持していくべきと考えるが、国はどのようにお考えか。 本県としては、現状のままでは、JRの恣意的な判断により、路線の廃止が全国で際限なく広がっていくことを危惧しており、また、鉄道ネットワークのあり方に関する整理は、この協議会の議論の大前提であるため、早期に明らかにしていただきたい。
庄原市	<ul style="list-style-type: none"> 将来を見据えた鉄道ネットワークの方向性をはじめ、内部補助や鉄道の果たす役割、なぜJR西日本が維持できないのかについては、再構築協議会における議論の前提であり、国の考え方が示されないまま、協議会が進められることに強い懸念を抱いている。
新見市	<ul style="list-style-type: none"> 国の鉄道ネットワークに関する考え方について、芸備線及び姫新線は、兵庫県から広島県に跨がる広域の鉄道ネットワークであり、近く発生が懸念される南海トラフ地震の発生時において、山陽本線や山陽新幹線の代替ネットワークにもなり得るが、国においては、なり得ないと考えているのか、またその場合はその理由を示していただきたい。 路線バスの運転手が不足する状況を踏まえ、国においては、リーダーシップを発揮して、鉄道を維持する場合、維持できない場合の様々な選択肢について検討いただき、その考え方を示していただきたい。 芸備線を鉄路として維持しないことを一部の自治体の意見だけで判断することで、他のネットワークを分断することに非常に懸念、不安があるため、国としての考えをお聞きしたい。

② 協議会の今後の進め方について

構成員	主な意見
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> 今後、議論を進めるに当たっては、地域住民等の意見も丁寧に聞き、議会とも合意形成を図りながら、慎重に進めていく必要がある。議論を長引かせるといったことではないが、スケジュールありきとならないようお願いする。 最終的な調査結果が出てくるまで待つのではなく、時点、時点でのデータや分析状況を基に、こまめに議論を重ねながら調査事業を取りまとめていくイメージを持っている。
広島県	<ul style="list-style-type: none"> 今後、調査事業の実施に当たり、芸備線の新たな役割や価値などもしっかり調査していくため、委託事業者と協議を行う際は、事務局のみならず、本県を含む各構成員も参画し、積極的に意見や提案を行うことができるよう配慮をお願いする。 実証事業は、日常利用と観光利用の両面から、あらゆる取組を行うことが必要であるため、地元関係者を交えて機動的に検討し、取り組んでいけるよう「部会」を設置して議論を進めていきたいと考えており、事務局には設置に向けた具体的な調整をお願いする。

庄原市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証事業において、通学利用の利便性向上を図るとともに、観光などによる交流人口の増加や地域産業の活性化に資する取組を展開してまいりたい。また、実施に当たっては十分な期間が必要であると考えている。 ・ 今後の調査・実証事業の実施に当たっては、大量輸送性のみならず、日常利用の利便性向上、交流人口の増加、市民の地元への愛着や誇りの醸成など、人口減少対策上の多様な価値や役割が正しく評価されるよう、国の関係機関の参画のもと、この協議会で議論することを提案する。
新見市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の調査事業では、特定区間の乗車密度や沿線地域の人口といった定量的な指数だけでなく、鉄道があることで生じる地域の優位性や魅力といった定性的な指標により議論できるものにしていきたい。
神田教授 (有識者)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査事業以降の次のステップに進んでいく中で、3つの選択肢がある。 <ol style="list-style-type: none"> ① JRが引き続き運営 ② 鉄道を残して上下分離、公設民営、第3セクターで運営 ③ 鉄道から他の交通モードへの転換 ・ 鉄道を活かした地域振興について、まだ議論の余地がある。 ・ JRとして、②・③の場合に対応できるのか。それによって議論が変わるので、JRの考えを聞きたい。 ・ 地域でお金が循環することの観点で十分でなかった。鉄道がもたらす地域経済の影響を検討していく必要がある。 ・ 鉄道ネットワークについて、国全体でのマクロの主張は理解できるが、繋がっている利益と、繋がっていないことで逸失する利益がある。ネットワーク効果とは何かを検証しながら議論する必要がある。
JR 西日本	<p>【神田教授の質問に対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ②・③いずれの場合も、結果が出たら、JRとしても上下分離であれば自治体は第三種鉄道事業者、JRは第二種鉄道事業者として鉄道事業を担っていく。また、モード転換の場合も、BRTなど検討していくことができる。 ・ それ以外に地域のにぎわいや産業、観光振興にも主体として関わっていく。 ・ 自動車による移動が定着した地域において、地域交通の利用者は高校生や高齢者の移動がメインであり、人口減少や中山間地域の諸課題も踏まえれば、地域の未来に向けて沿線住民の日常生活に合った交通にリデザインしていくことは、先送りできない課題と認識。 ・ 次年度、速やかに“最適な交通モードの在り方の検討”がしっかり進められるよう、よろしく願いたい。

5 今後の対応

- 全国的な鉄道ネットワークのあり方について、国土交通省は説明したとの認識であるが、現在の説明では十分でないことから、全国知事会の要望活動や施策提案等において、引き続き国に回答を求めていく。
- 調査事業の実施にあたり、芸備線の新たな役割や価値などもしっかり調査するため、委託事業者と協議を行う際は、本県も参画し、積極的に意見や提案を行っていく。
- 芸備線の可能性を最大限追求する実証事業は、日常利用と観光利用の両面から、地元関係者を交えて機動的に検討し、あらゆる取組を進めていく必要があるため、庄原市と連携して、地元自治会関係者や商工団体、観光事業者等との調整を行っていく。
- また、「部会」については、可能な限り早期に設置できるよう、事務局（中国運輸局）との調整を進める。

6 その他

(1) 今後のスケジュール（予定）

令和6年12月頃 第3回幹事会

令和7年3月頃 第3回芸備線再構築協議会（以降、順次開催）

(2) 予算（単県）

2,945千円（令和6年9月補正）